

日本における持続可能な開発目標に対する市民の関心の計測と分析

アンケート調査結果に基づく関心の規定要因の考察

Analysis of Citizen's Priorities over Sustainable Development Goals in Japan

○池田和弘*・鈴木政史**・草郷孝好***・原圭史郎****・上須道徳****

Kazuhiro Ikeda, Masachika Suzuki, Takayoshi Kusago, Keishiro Hara and Michinori Uwasu

1. はじめに

ポスト 2015 年開発目標（ポスト MDGs）の設定に向けた国際的な交渉が進んでいる。リオ+20 の結果を受けて持続可能な開発目標（SDGs）の設定の議論も進んでいる。一方、MDGs や SDGs の恩恵を受けるはずの一般市民がどのような社会的目標やターゲットに関心があるかという調査は十分に進められてきたとは言いがたい。このような調査は国連の「My World 2015」サーベイなどに限られている。また従来の MDGs の目標設定の対象は主に途上国に限られていたが、ポスト MDGs においてはその対象として先進国も含めるといふ議論が強く、日本を含めた先進国の市民が生活の中でどのような課題に関心があるかという調査が必要である。

2. 調査方法

本研究は日本において持続可能な開発目標に関するアンケート調査(n=1,855)を実施し、25 の社会的課題に対する一般の市民関心を測定すると共に、課題への関心と属性（性別、学歴、収入既婚、子供、都市移住）及び幸福度との関係を調査する。

3. 分析結果

はじめに、「あなたの今の生活に足りていない問題はどれですか」という質問への回答傾向をみる。この設問は調査者側で予め設定した 25 の項目について、充足されていないと思う問題から順に 5 つ挙げてもらったものである。これを複数回答処理した上で単純集計した結果が表 1 である。雇用促進や経済成長など経済や家計に関する項目に回答が集まる中で、再エネ導入が上位につけ、資源の有効活用、大気汚染や温暖化への対策など、環境への関心も根強く存在することが分かる。また、災害対策、犯罪抑制のように安心・安全に関わる項目への関心も高く、レジリアンスの問題も反映されているものと推察できる。

一方、表 1 には表示していないが、「極度な貧困状態にある人をなくす」や「安全な飲み

* 上智大学大学院地球環境学研究科 Graduate School of Global Environmental Studies, Sophia University
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 TEL:03-3238-4176 E-mail: ikeda@genv.sophia.ac.jp

** 上智大学大学院地球環境学研究科

*** 関西大学社会学部

**** 大阪大学環境イノベーションデザインセンター

***** 大阪大学環境イノベーションデザインセンター

注:本論文の著者の本研究への貢献度は並び順とは関係がなく平等である。

水へのアクセスを確保する」といった従来の MDGs の課題に対する関心は高くなかった。この結果は従来の MDGs の目標設定では先進国の課題をカバーできないことを示唆していると考えられる。

表 1 今の生活に足りていない問題（単純集計、複数回答）

	回答数	%
1 優良な雇用を促進する	618	33.3%
2 持続可能なエネルギー(再エネなど)の導入を進める	547	29.5%
3 災害から身を守る社会を構築する	519	28.0%
4 経済成長を持続する	502	27.1%
5 犯罪や暴力の少ない安全に暮らせる社会を構築する	501	27.0%
6 限りある資源を有効活用する	499	26.9%
7 大気汚染を削減する	466	25.1%
8 温暖化が進まないように温室効果ガスを削減する	448	24.2%

* N=1855

次に、各項目への回答を被説明変数としたロジスティック回帰分析を行った。表 2 の結果が示すように、モデル・ χ^2 値は災害対策、経済成長、犯罪抑制の 3 項目において統計的に有意を示さなかった。その他の項目においては、雇用促進では収入と幸福度、再エネ導入では年齢、学歴、収入、資源活用では幸福度、大気汚染では性別、幸福度、都市居住、温暖化では年齢、性別、収入、幸福度の影響が、それぞれ統計的に有意であった。

表 2 今の生活に足りていない問題への回答を規定する要因（ロジスティック回帰分析）

	雇用促進 B	再エネ導入 B	災害対策 B	経済成長 B	犯罪抑制 B	資源活用 B	大気汚染 B	温暖化 B
年齢	-.002	.017 **	.010 *	.000	.004	.005	.002	.011 *
男性ダミー	.058	-.087	-.350 **	.038	.054	-.127	-.242 +	-.239 +
大卒ダミー	.144	.375 **	.175	.328 **	.142	.125	-.084	.010
収入	-.077 ***	.033 +	.006	-.021	-.030	.005	.003	.040 *
既婚ダミー	-.186	.231	-.119	-.009	.313 +	.123	.110	.060
子供ダミー	.069	.016	.147	.119	-.051	.105	.120	-.009
幸福度	-.107 ***	-.003	-.020	-.024	-.023	.068 **	.053 +	.061 *
都市ダミー	-.052	-.039	.095	.050	.179	-.091	.284 *	.163
定数	.512 *	-2.073 ***	-1.241 ***	-.952 ***	-1.293 ***	-1.782 ***	-1.736 ***	-2.254 ***
R2	.044	.039	.010	.009	.010	.015	.017	.021
χ^2 (df=8)	51.432 ***	44.704 ***	11.528	9.879	10.981	16.370 *	19.028 *	23.262 **
N	1617	1617	1617	1617	1617	1617	1617	1617

*** p<.0001, ** p<.001, * p<.005, + p<.010

4. 考察

以上の結果から、二つのことが言える。第一に、今の生活において充足されていないと評価された項目の中には、どのような基本属性をもつ人からも支持されたものと、ある特定の属性をもつ人から特に支持されたものの 2 つのタイプがある。前者は災害対策、犯罪抑制、経済成長など、広く社会的な営みのベースとなるような項目、すなわち社会資本だと考えることができる。このような項目はポスト MDGs に向けて広く市民の間で共通した社会的課題だということができる。第二に、後者に関しては、統計的に有意な影響をもつ属性がそれぞれ異なることが確認できる。雇用促進は収入と幸福度が低い人から支持され、広く貧しさと関係することを示唆している。また、再エネ導入は大卒以上で比較的年齢の高い人から特に支持され、こちらは知識や責任と関係しているのではないかと解釈できる。